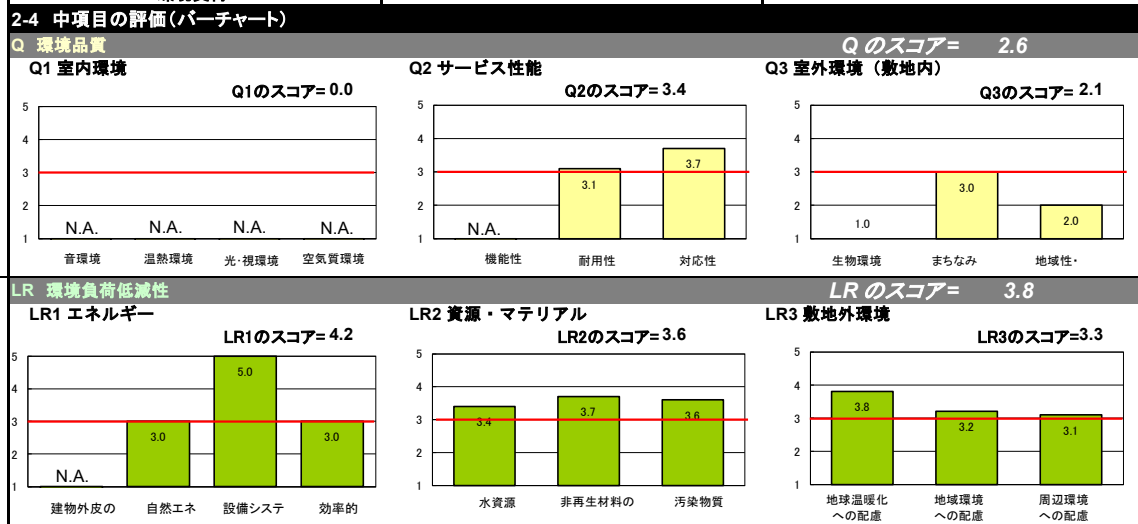
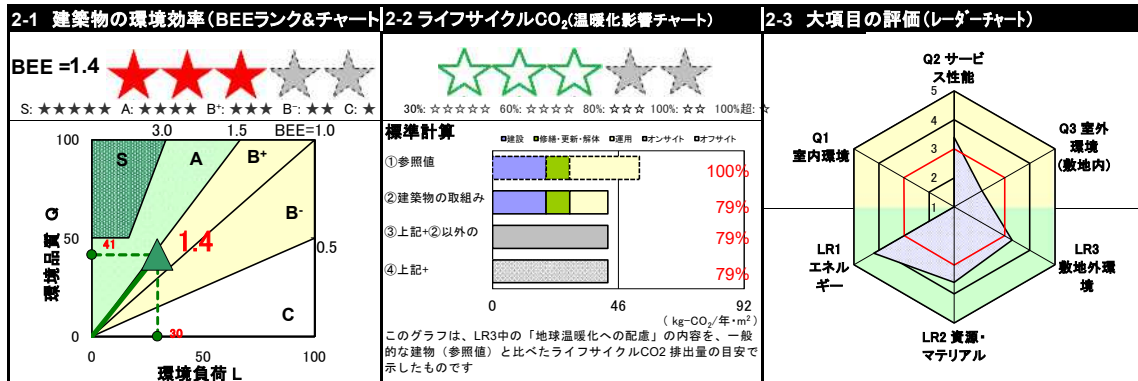


CASBEE[®] あいち

評価結果

■使用評価マニュアル：CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト：CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

1-1 建物概要	1-2 外観
建物名称 名誘 第7工場	階数 地上2階
建設地 愛知県小牧市大字東田中宇野田1200-1他101筆	構造 S造
用途地域 工業専用・法22条指定	平均居住人員 764 人
気候区分 6地域	年間使用時間 2,920 時間/年
建物用途 工場	評価の段階 実施設計段階評価
竣工時期 2025年9月 予定	評価の実施日 2025年7月29日
敷地面積 10,173 m ²	作成者 松本拓也
建築面積 7,855 m ²	確認日 2025年7月30日
延床面積 8,503 m ²	確認者 松本拓也



3 重点項目		
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化	
3.8	1.0	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
		0.0 %
		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
		0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用	
3.4	1.0	<外装材に使用した地域性のある材料>
		なし
		<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
		なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$ 建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$ 

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き
名誘 第7工場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階										
		独自基準				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分				
配慮項目		重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質												2.6
Q1 室内環境												
1 音環境												
1.1 室内騒音レベル						3.0						
1.2 遮音												
1 開口部遮音性能												
2 界壁遮音性能												
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												
1.3 吸音												
2 温熱環境												
2.1 室温制御												
1 室温						3.0						
2 外皮性能						3.0						
3 ゾーン別制御性						3.0						
2.2 湿度制御						3.0						
2.3 空調方式						3.0						
3 光・視環境												
3.1 昼光利用												
1 昼光率						3.0						
2 方位別開口												
3 昼光利用設備						3.0						
3.2 グレア対策												
1 昼光制御						5.0						
3.3 照度						3.0						
3.4 照明制御						3.0						
4 空気質環境												
4.1 発生源対策												
1 化学汚染物質						3.0			3.0			
4.2 換気												
1 換気量						3.0						
2 自然換気性能						3.0						
3 取り入れ外気への配慮						3.0						
4.3 運用管理												
1 CO ₂ の監視						3.0						
2 喫煙の制御						3.0						
Q2 サービス性能								0.43				3.4
1 機能性												
1.1 機能性・使いやすさ												
1 広さ・収納性						3.0						
2 高度情報通信設備対応						3.0						
3 バリアフリー計画		独自				3.0						
1.2 心理性・快適性												
1 広さ感・景観 (天井高)						3.0						
2 リフレッシュスペース						3.0						
3 内装計画						3.0						
1.3 維持管理												
1 維持管理に配慮した設計						3.0						
2 維持管理用機能の確保												
2 耐用性・信頼性						0.5	3.1	0.52				3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振						0.4	3.2	0.48				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	3.0	0.80				
2 免震・制震・制振性能			防振吊金具を使用している			3.0	4.0	0.20				
2.2 部品・部材の耐用年数						0.3	3.0	0.33				
1 躯体材料の耐用年数							3.0	0.25				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		②					2.0	0.25				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												
4 空調換気ダクトの更新必要間隔							3.0	0.08				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔			給水 VLP 給湯 SUS 排水・通気 VP Eは不使用				5.0	0.17				
6 主要設備機器の更新必要間隔							3.0	0.25				
2.4 信頼性						0.1	3.0	0.19				
1 空調・換気設備						3.0	3.0	0.20				
2 給排水・衛生設備						3.0	4.0	0.20				
3 電気設備						3.0	3.0	0.20				
4 機械・配管支持方法						3.0	3.0	0.20				
5 通信・情報設備		②	省水型便器の採用、災害時の使用や確保			3.0	2.0	0.20				

3 対応性・更新性					0.4	3.7	0.48				3.7
3.1 空間のゆとり			②		0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり	階高 4.9m以上		-	5.0	0.60			-		
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 0.04		3.0	5.0	0.40			-		
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31			-		
3.3 設備の更新性				0.3	3.2	0.38			-		
1	空調配管の更新性	ケーブルラック使用		-	3.0	0.17			-		
2	給排水管の更新性			3.0	3.0	0.17			-		
3	電気配線の更新性			3.0	5.0	0.11			-		
4	通信配線の更新性			3.0	3.0	0.11			-		
5	設備機器の更新性		3.0	3.0	0.22			-			
6	バックアップスペースの確保		3.0	3.0	0.22			-			
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57		-	-	2.1	
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30		-	1.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	公共空間からほとんど見えず、まちなみ、景観に配慮しようがない	-	3.0	0.40		-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.0	0.30		-	2.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	2.0	0.50		-		
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	2.0	0.50		-		
LR 建築物の環境負荷低減性						-	-		-	3.8	
LR1 エネルギー						-	0.40		-	4.2	
1 建物外皮の熱負荷抑制					3.0	-	-		-	-	
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.13		-	3.0	
3 設備システムの高効率化				BEI=0.55	3.0	5.0	0.63		-	5.0	
4 効率的運用					0.2	3.0	0.25		-	3.0	
集合住宅以外の評価					1.0	3.0	1.00		-		
4.1 モニタリング					3.0	3.0	0.50		-		
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	0.50		-		
集合住宅の評価					-	-	-		-		
4.1 モニタリング					-	-	-		-		
4.2 運用管理体制					-	-	-		-		
LR2 資源・マテリアル						-	0.30		-	3.6	
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15		-	3.4	
1.1 節水				省水型機器の採用	3.0	4.0	0.40		-		
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60		-		
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.67		-		
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	0.33		-		
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.7	0.63		-	3.7	
2.1 材料使用量の削減			② 独自		-	3.0	0.07		-		
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.25		-		
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					-	3.0	0.21		-		
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	4.0	0.21		-		
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-		-		
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				独自	LGSD下地 OAフロア採用	3.0	5.0	0.25		-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.6	0.22		-	3.6	
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32		-		
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	4.0	0.68		-		
1 消火剤					-	-	-		-		
2 発泡剤(断熱材等)				発泡剤を用いた判断材等を使用していない	-	5.0	0.50		-		
3 冷媒					3.0	3.0	0.50		-		
LR3 敷地外環境						-	0.30		-	3.3	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2排出率79%	-	3.8	0.33		-	3.8	
2 地域環境への配慮					0.3	3.2	0.33		-	3.2	
2.1 大気汚染防止				ガス設備を採用せず、オール電化としている	-	5.0	0.25		-		
2.2 温熱環境悪化の改善					-	3.0	0.50		-		
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	2.0	0.25		-		
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25		-		
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25		-		
3 交通負荷抑制			独自		-	1.0	0.25		-		
4 廃棄物処理負荷抑制					-	1.0	0.25		-		
3 周辺環境への配慮					0.3	3.1	0.33		-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40		-		
1 騒音			独自		-	3.0	0.33		-		
2 振動			独自		-	3.0	0.33		-		
3 悪臭					-	3.0	0.33		-		
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40		-		
1 風害の抑制					-	3.0	0.70		-		
2 砂塵の抑制					-	-	-		-		
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30		-		
3.3 光害の抑制					0.2	3.7	0.20		-		
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				光害対策チェックリストの一部を満たし、広告部照明は設置されていない	-	4.0	0.70		-		
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30		-		

重点項目スコアシート
名勝 第7工場

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.8
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.8	0.10	
② 資源の有効活用				3.4
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.7	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.17	外構緑化:0%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 名誘 第7工場

計画上の配慮事項	
総合	地域性やサービス性能に配慮し、機能的や間隔や空間づくり、大気汚染防止のためガスを使用していなく、地球温暖化係数を出さず、オゾン層を破壊しない可能性を取り組んでいる。
Q1 室内環境	特に無し。
Q2 サービス性能	給排水管の更新必要間隔を多いにとっており、空間のあるゆとりを配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	地域性・アメニティへの配慮をしている。
LR1 エネルギー	LED照明設備など高効率設備により省エネルギー性に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	節水機能や再利用可能性向上への取組みを確保。発泡剤を用いた判断材等を使用していないため、汚染物質含有材料の使用回避を行った。
LR3 敷地外環境	大気汚染防止のため、ガスを設置していない。
その他	特に無し。